

■ 清水寺界限

● 清水寺

東山三十六峰・音羽山の西の中腹にある清水寺。

北法相宗の大本山。山号は音羽山、開山の頃は「北観音寺」と称される。

780年、この地に鹿狩りに来た坂上田村麻呂が修行中の僧、延鎮に殺生を戒められ、夫人とともに千手観音を造りお堂を建てたのが始まりと伝える。

【拝観料】高校生以上 400 円、中学生以下 200 円

● 清水道

東大路通の清水道交差点から清水寺までの約 1.2 キロの坂道は清水道と呼ばれ、道の両側には観光客向けのみやげ物店などが多く並ぶ。

● 松原通

松並木の綺麗な通から「五条松原通」と言われるようになり、後に「松原通」の名前だけが残った。豊臣秀吉が五条の橋を現在の地に架けたことから二筋南に五条通の名前が移った。つまり、牛若丸と弁慶が出会ったと言われる「五条の橋」は、松原通に架かる橋が正当であり、現在五条大橋西詰におかれている 2 人の像は二筋南におかれていることになる。なお現在の松原橋は 1935 年の鴨川水害で倒壊流失後に架け替えられたものである。

● 産寧坂

「産寧坂」の語源には諸説あり、この坂の上の清水寺にある子安観音へ「お産が寧か(やすらか)でありますように」と祈願するために登る坂であることから「産寧坂」と呼ばれるようになったという説が有力だが、一方で清水寺に参拝した人がこの坂道を通る際に念願を強くし、願いが叶ったあとで観音様への御礼に再度お参りする時に通る坂であることから「再念坂」と呼ぶようになったという説もある。同名異字の「三年坂」で転ぶと、三年以内に死ぬ。また転べば三年の寿命が縮まると伝記が三年坂通りのある和歌山市で有名であるが、直接関係あるのかは不明。

● 茶わん坂

実はごく最近(1922年(大正11年))付けられた名前。

大正時代以前までは、「清水新道一丁目」などと呼ばれていた。

「清水坂」のあたりは「窯元(かまもと陶磁器を作る工房)」が軒を連ねていて、

1629年、清水寺の境内は大火事で焼失、客足が一旦、途絶えるが、その後徳川家光公によって1633年頃(慶長年間/江戸時代)から再建が開始される。

再建後の清水寺は以前にも増して賑わいをみせ、この賑わいに乗じて店の数も増加。

自らが陶磁器を焼いて販売する者も出沒し、陶磁器販売で豪商になる人物も出てきた→茶碗屋久兵衛後に久兵衛の茶碗や陶磁器は参拝客の間で人気となり、この久兵衛の名前の「茶碗屋」から「茶碗」をとって「茶碗坂」というネーミングが付されている。

● 仁王門(重文)

応仁の乱によって焼失しているが、15世紀末には再建された。室町時代の特徴をよく示した楼門で、丹塗りのため「赤門」とも呼ばれている。

正面に掲げられている「清水寺」の額は、藤原行成の筆と伝えられている。

門の両脇には、鎌倉時代末期の金剛力士(仁王)像を安置。像高365cmで、京都では最大級の仁王像。仁王門の右側端っこに指でくりぬいたような穴が開いていて、これが表側と、門をくぐり抜けた裏側にある。これは片方に耳をあて、もう片方を誰かが叩くと「カンカン」と透き通った音が聞こえてくる。なぜこれが作られたのか、なぜこんな澄んだ音色が聞こえるのかは謎。(七不思議・その1)



● 鐘楼(重文)

現在使われている梵鐘は、2008年(平成20年)に取り付けられた5代目で梵鐘の重量は約2トン。

4代目の梵鐘は応仁の乱後の1478年(文明10年/室町時代)に復興の意味合いを込めて「時宗の僧侶・願阿上人(がんあしょうにん)」の発願によって奉納されたもので、鐘楼と並んで重要文化財に指定されている(現在は非公開。境内の「宝蔵殿(ほうぞうでん)」に安置。)

鐘の金属劣化の話はあまり聞きませんが、鐘は劣化すると残響時間が短くなります。

4代目の梵鐘は1分持たず45秒ほどだったようです。

現在の5代目の梵鐘は厚みを不均等にして鑄造することで、約2分間も残響が出るに設計されています。余談ですが、この5代目の梵鐘の設計と鑄造は、京都市右京区にある「岩澤の梵鐘株式会社」という会社になります。鐘楼は普通4本の丸柱で支えるのですが、ここは六本柱になっています(七不思議・その2)謎解きをしてしまえば、この梵鐘が通常よりも大きく重たいため、それを支えるのに柱を増やしたのだとか。



● 隋求堂

清水寺の境内にかつて存在した「慈心院」の本堂(伽藍・がらん・塔頭)

安産の神様:「粟島明神(あわしまみょうじん)」

縁結び・金運向上の仏様「大聖歓喜天(だいしょうかんきてん)」(秘仏)

このお堂では、「胎内くぐり」と言って、真っ暗なお堂の地下へ入ることができる

この地下には、菩薩を意味すると言われる「梵字(ハラ)」が刻まれており、暗闇の中、この字に触ることができれば、願いが1つだけ叶うと言われている。

「胎内くぐり」の料金:100円 「胎内くぐり」ができる時間:9:00~16:00

● 狛犬(七不思議・その3)

狛犬というのは通常「阿吽」すなわち「阿形(あぎょう)」と、口を閉じた「吽形(うんぎょう)」で一對を成すもの。ところが、ここはどちらも「阿」「阿」と口を開けている。

実は、奈良東大寺の南大門北側の狛犬も「阿阿」型。「阿吽」でなければいけないという決まりはないんだそう。「阿」は宇宙や万物の始まり、「吽」は宇宙や万物の終わりという意味。五十音でも「あ」で始まり「ん」で終わりますね。これもその意味。「阿吽」で完結するわけです。すべての始まりを意味する「阿」の狛犬が二匹並んでいると、まるで「ここから何かが始まりますよ」という、壮大な入り口を連想させる。

● 三重塔(重文)

仁王門のすぐ近くにある三重塔

この塔が建立されたのは847年(承和14年/平安時代)と伝えられており、時の天皇である嵯峨天皇の皇太子が生まれたことにより、葛井(かどい)親王が勅命を奉じて創建されたと伝えられている。

何度か焼失を繰り返し、現在まで伝えられているのは1632年に再建されたものを、1987年に解体修理して復元されたもの。

この塔の注目すべき隠れた見どころは「屋根の鬼瓦」。

四隅にある鬼瓦のうち、南東の鬼瓦だけは、なぜか**龍神の鬼瓦(七不思議・その4) ★**

● 虎の石灯籠(七不思議・その5) ★

仁王門の手前の右奥、西門下の広場には「虎の図」の石灯籠がある。

江戸時代後期の虎の絵の名手「岸駒」の作品。

この虎は、毎夜灯籠から抜け出して、池の水を飲みに行くという。

ちなみに、八方睨みの虎といわれ、どの方向から見ても目が合う。

● 清水の舞台(国宝)(七不思議・その6) ★

現在の建物は徳川家光の寄進により1633年(寛永10年)に再建されたもの

「懸造」(かけづくり・舞台造ともいう。)と呼ばれる建築方法で釘は一本も使用されていない。樹齢400年のケヤキの大木を使って作られ、一度組んだら決して外れず、この手法を「地獄組み」と言うそうです。

舞台に釘などの金属が使われなかったのも、錆による腐食を防ぐためなのだとか。

● 地主神社

現在の社殿は、徳川家光が寛永10年(1633年)に造営したもの。

大国主命を主祭神として、父母神の素戔鳴命・奇稻田姫命、奇稻田姫命の父母神の足摩乳命・手摩乳命を正殿に、大田大神(芸能と長寿の神)、乙羽竜神(旅行・交通安全の神)、思兼大神(知恵と才能の神)を相殿に祀る。

「恋占いの石」や「恋みくじ」で修学旅行生に大変人気なスポットの1つ。

● 音羽の滝

「清水寺」の名前は、この滝からこんこんと流れ出る清水が由来。本来はここで滝行を行う場所。

水の中の3組の踏み台がある。早朝に滝行を行っている人がいる。

三筋の滝から構成されており、そのご利益は、向かって右から、「延命長寿」「恋愛成就」「学業成就」の順とされている。(これはバスガイドが広めた。現在はもう言っていない。)常に行列が出来ているので、よっぽど時間が余ってるときしか並べません。「写真だけね!」でうまく回避!

● 舌切茶屋

清水寺参拝の後には忠僕茶屋と舌切茶屋という2軒の茶店があります。

舌切茶屋は月照を守り、安政の大獄で捕えられた近藤正慎が獄中で壁に頭を打ちつけて舌を噛み切って自害したことにより、その妻子が境内で茶屋を営業することを許された。

近藤の子孫は代々、清水寺境内で休憩所「舌切茶屋」を営む。(孫に陶磁器の人間国宝である近藤悠三、曾孫に俳優の近藤正臣がいる)舌切りすずめとは無関係！

● 忠僕茶屋

月照上人の九州下向に付き従い、忠実に仕えた者がいました。まだ20代の若者、大槻重助(おおつきじゅうすけ)です。月照上人の入水後、その遺品を京都に持ち帰った重助は、京都に戻った後、捕えられ、六角牢獄につながれます。そこで同じく獄中にあった信海上人と再会。信海上人は後に江戸に送られ、伝馬町牢内で病死するのですが、このとき重助は、信海から後事を託されたのです。

重助はやがて解放され、一旦は生まれ故郷に帰ったものの、再び清水寺に戻り、茶屋を営みながら、生涯、月照・信海両上人のお墓を守り続けました。

● アテルイ・モレの碑

蝦夷(えみし)の首長阿弭流為(アテルイ)と母禮(モレ)の名が刻まれた石碑。

二人は、征夷大將軍坂上田村麻呂と勇敢に戦うが、郷土の犠牲に心を痛め、田村麻呂の軍門に下った(801年(延暦20年))。

田村麻呂は、朝廷に二人の助命を願ったが、翌年、処刑されたという。

石碑は、平安建都1200年を期して、1994年(平成6年)に有志により建立されたもの。

「北天の雄 阿弭流為 母禮之碑」と刻まれている。

● 子安の塔(重文)

正式には清水寺の塔頭(小院)である泰産寺(たいざんじ)に属する塔婆

はもともとは仁王門の左手前に造営されていましたが、1911年(明治44年)に現在の場所へ移築。移築された理由としては、清水寺が子安塔を売り払い、境内の「地主神社」を現在の子安塔が建つ場所へ造営する計画があったため。

檀家を持たない清水寺の資金は寺領の収入のみだった。明治時代に差し掛かり、この寺領が減らされたため資金調達が難しくなり、境内の堂舎をやむなく売り払った歴史がある。現在見ることのできる姿は1500年(明応9年/室町時代)に再建された時のもので、外観は2013年(平成25年)に修復された時のもの。

【清水付近の寺社】

● 法観寺【八坂の塔】(重文)

臨済宗建仁寺派の寺院。山号は靈応山。聖徳太子が五重塔を建てその中に仏舎利を収めて法観寺と号したと言われている。

観光客から人気なのはやはり東大路から東へ坂道を上る風景、なんとも表現できない程、素敵な情景で、京都にいるんだな、と実感できる場所。毎年3月には東山花灯路が開催。

文化財に指定されている塔としては日本で唯一年中内部を拝観できる塔となっていて、二層目までのぼることができます。不定休なので行っても中に入れない場合があります。内部拝観希望の班に当たったら電話確認必須！

【拝観時間】10:00～16:00【拝観料】中学生以上 400 円？(小学生以下拝観不可)

● 高台寺

臨済宗建仁寺派の寺院。山号は鷲峰山(じゅぶさん)、寺号は詳しくは高台寿聖禪寺と称する。北政所(高台院)が秀吉の冥福を祈るため建立した寺院であり、寺号は北政所の落飾(仏門に入る)後の院号である高台院にちなむ。

開山堂(重文)

もとの持仏堂で、方丈の北東にある。外陣に秀吉が使用した御座船と、内陣中央に北政所が使っていた御所車の遺材を用いたとされる天井がある。

靈屋(重文)

開山堂の東方、一段高くなった敷地に建つ、宝形造檜皮葺きの堂。慶長10年(1605年)の建築。内部は中央の厨子(平素、扉を閉じている)に大随求菩薩(だいずいぐぼさつ)像を安置。向かって右の厨子には豊臣秀吉の坐像、左の厨子には正室・北政所の片膝立の木像がそれぞれ安置されている。

臥龍廊(がりょうろう)

開山堂と靈屋(おたまや)を結ぶ屋根付きの階段、龍の背に似ているところからこの名が付けられた。

庭園(史跡・名勝)

小堀遠州作とされ、しだれ桜と萩の名所。石組みの見事さは桃山時代を代表する庭園として知られる。

傘亭(重文)

境内東奥の小高い場所に位置する。伏見城から移築したものとされ、千利休好みの茶室と伝える(ただし伏見城建設は利休の自刃後)。宝形造茅葺きの素朴な建物で、内部の天井が竹で組まれ、その形が唐傘に似ているところから傘亭の名がある

時雨亭(重文)

傘亭の南隣にあり、傘亭との間は屋根付きの土間廊下でつながれている。珍しい2階建ての茶室で、2階南側の上段の間は柱間に壁や建具を設けない吹き放し

【拝観時間】9:00～17:00

【拝観料】中高生 250 円、大学生以上 600 円

【駐車場】自家用車 100 台分有。最初の1時間 600 円。以後 30 分 300 円(参拝者1時間無料)清水寺は修学旅行シーズンは朝のラッシュで駐車場が満車になるので、3年坂で買い予定に入っている班の場合、初めから高台寺に停める方法も吉。

■ 清水寺の七不思議のまとめ

- 仁王門（重文）。（その1）
- 鐘楼（重文）六本柱。（その2）
- 狛犬（その3）
- 三重塔（重文）龍神の鬼瓦（その4）
- 虎の石灯籠（その5）
- 清水の舞台（国宝）（その6）

さて、七つめは？

■ 清水寺は西国三十カ所観音霊場である。

さて、何番札所か？

■ 数年前まで京都に唯一の有料トイレがありました。

どこですか？

■ 防災道路入り口はどこですか？

どうやって入りますか？

■ 隋求道は一体何を表していますか？

■ 次回の秘仏開帳はいつでしょうか？

清水寺の奥の院ご本尊の場合、しばらくないかもしれませんが、

- ・2002年に重要文化財に指定される。
- ・2003年3/7～12/7には243年のときを経てご開帳。
- ・2008年8月～11月には博物館にて特別展西国三十三所に公開された。